

自閉症スペクトラム児の表出語彙について
一品詞分析による検討一

吉岡豊

新潟医療福祉大学 言語聴覚学科

【背景・目的】定型発達においては初語の表出以降、初期は名詞が早期に獲得されるが、1歳5か月頃から動詞の獲得が認められ、相対的に名詞の比率は減少し、1歳11か月頃には表出語彙の50%程度になると報告されている(藤原ら、2005)。一方、自閉症スペクトラム(以下、自閉症)児の表出語彙においては名詞が特に多いことが指摘され(吉岡、2013)、動詞の獲得が困難であることも報告されている(西村、2004)。

そこで本研究では、自閉症児の表出語彙を品詞別に分類し、名詞の割合がどのように変化していくのかを語彙年齢と関係づけて検討した。

【方法】対象は自閉症と診断された13例(男児9、女児4)で、年齢は5歳7か月±9か月であった。なお、全例表出語彙数は100語を超えていた。

13例に対して個別法で絵画語い発達検査と田研式言語発達診断検査(語彙検査のみ)を実施し、それぞれ理解語彙年齢と表出語彙年齢を算出した。なお、これらの検査で語彙年齢が算出できなかった場合は遠城寺式・乳幼児分析的発達検査の発語と言語理解の発達年齢を語彙年齢とした。保護者に対しては、表出語彙チェックリスト表による語彙チェックを依頼した。表出語彙チェックリストは全3,141語からなっており、その内訳は名詞2,115語(約67%)、動詞505語(約16%)、オノマトペ201語(約6%)、形容詞111語(約3%)、副詞83語(約2.5%)、助詞・助動詞65語(約2%)、その他61語であった。なお、構音が不明瞭であった場合や語の一部しか表出していないワードパッチルを表出した場合は表出可能な語彙とし、オウム返しによる発語は除外してもらった。

【結果】対象となった13例の表出語彙年齢は平均4歳3か月±8か月、理解語彙年齢は3歳2か月±12か月と表出語彙年齢が有意に高かった。

表出語彙年齢および理解語彙年齢と表出語彙数との関係を図1に示した。この図から、表出語彙年齢との相関は低い($r=0.35$)、理解語彙年齢とでは語彙年齢が上昇すると表出語彙数も増えていく傾向が認められ($r=0.89$)、その関係は有意であった。

次に、語彙年齢順に表出語彙数および名詞の割合がどのように変化していくのかを検討したのが図2である。この図からは、表出語彙年齢順では一定の傾向は認められないのわかる。一方、理解語彙年齢順では理解語彙年齢が高くなるにしたがって、表出語彙に占める名詞の割合が減少傾

向にあった。また、理解語彙年齢が高くなるに伴い、表出語彙数も多くなる傾向にあった。

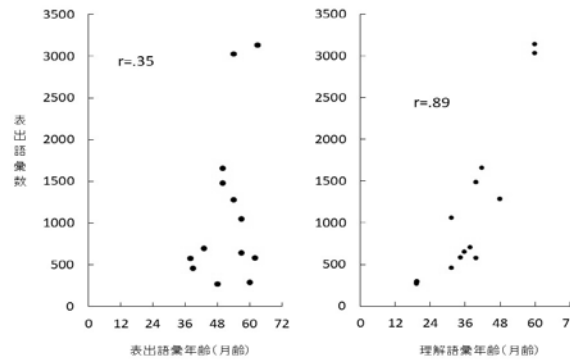


図1 語彙年齢と表出語彙数の関係

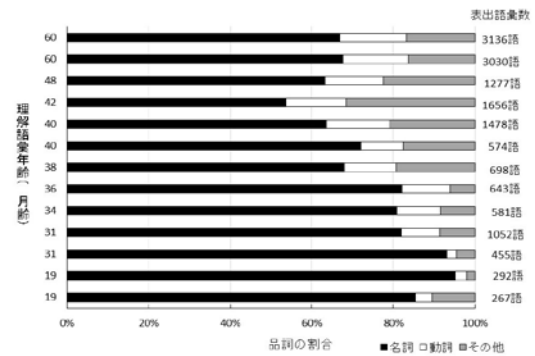


図2 理解語彙年齢と表出語彙数、品詞割合の関係

【考察】本研究の結果、表出語彙年齢は理解語彙年齢よりも有意に高く、これまでの研究と一致していた(Hudryら、2010、吉岡、2014)。このことから、自閉症児における表出語彙年齢と理解語彙年齢の乖離は特徴の1つと思われる。

表出語彙数と関係が強かったのは、理解語彙年齢の方であり、表出語彙に占める名詞の割合も理解語彙年齢の上昇に伴って減少傾向にあった。このことから、表出語彙数および品詞の割合は理解面との関係が深いことがうかがわれる。その理由の1つとしては、自閉症児に対して実施された田研式言語発達診断検査(語彙検査)による表出語彙年齢が対象児の語彙レベルを反映していないことが考えられる。

【結論】自閉症13例を対象に、表出語彙数および品詞割合と語彙年齢との関係を検討した。その結果、品詞の割合は名詞が最も多いこと、表出語彙数と名詞割合の減少は理解語彙年齢と関係のあることが示唆された。